「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成２５年度実績評価）

事業名	全児童化のための施設整備	掲載ページ
		55

コスト	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		65,113 千円	111,373 千円	施策名	放課後児童クラブ	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	留守家庭の保護者が安心して子どもを預けて働くことができるよう、放課後児童クラブの施設整備を行います。さらに、留守家庭以外の児童も受け入れ、希望するすべての子どもたちの放課後の居場所づくりを推進します。そのため、希望者全員を受け入れることができ、国のガイドライン（児童の生活スペースや静養スペースの確保等）に沿った施設整備を行います。また、適切な指導を行う上で必要な環境を整えるため、大規模クラブの分割を行います。
活動計画		大里柳小学校区では、全児童化に伴う施設整備に取り組みます。また、貫小学校区では利用児童数の増加から、既存施設のままでは児童の受入が困難になるため、施設の増設に取り組みます。

【Do】実施 → 【Check】評価

活動実績	活動結果は下記のとおりです。

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載）（上段：指標名　下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	全児童対応クラブの割合 希望する全ての児童を受け入れられるよう必要な施設整備を行い、全クラブで全児童化を実施することが、子どもたちの放課後の居場所の確保につながることから、活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）100%（23年度）	100 %	100 %	100 % 100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	登録児童71人以上のクラブ数 国のガイドラインでは、登録児童数は最大70人までとすることとされています。71人以上の大規模クラブの解消を図ることが必要であることから、活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）0クラブ（26年度）	4 クラブ	減少	3 クラブ	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理			
	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	大里柳・貫両小学校区について、予定通り施設整備等を行うことができました。そのため活動の状況は順調としました。 全児童化のための施設整備により、待機児童の解消などの放課後児童クラブの課題の解決が図られており、有効性の高い取り組みと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	施設整備にあたり、立地場所については市立小学校敷地内を、建物については小学校の余裕教室を優先活用することとしており、経済性・効率性の高い取り組みと考えています。

【Action】　目的実現のために平成26年度以降に実施すること

門司海青・葛原両小学校区では、利用児童数の増加から、既存施設のままでは児童の受入が困難になるため、26年度に施設の増設整備を実施する予定です。
今後も、待機児童を出さず、また71人以上の大規模クラブの解消を図るため、施設の増設等に取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成２５年度実績評価）

事業名	放課後児童クラブの運営体制の基盤整備	掲載ページ 55

コスト	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	子ども家庭局
		1,362,918 千円	1,392,419 千円	施策名	放課後児童クラブ	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →

目的

何を（誰を）どのような状態にしたいのか

放課後児童クラブの全児童化に併せ、市民ニーズに応えられる運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。

活動計画

指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーをクラブに派遣し、指導員に助言等を行います。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介し、指導員相互の交流や情報交換を促進します。他に、開設時間の標準化にも引き続き取り組みます。

【Do】実施 → 【Check】評価

活動実績

活動結果は下記のとおりです。

活動指標

指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載）（上段：指標名　下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合 開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質の向上を図ることが放課後児童クラブに対する様々なニーズへの対応につながることから、活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）100%（26年度）	97.9 %	向上	99.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
障害のある児童の受入 研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ることが、受入が増加する障害のある子どもへの適切な対応につながることから、活動指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）	245 人	障害児の受入促進	283 人		順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理

【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	指導員を対象にした研修においては、研修の受講だけでなく、受講後のフォローアップ効果を向上させるため、研修時のポイントをまとめた「研修だより」を発行しました。また、臨床心理士等の派遣も今年度で3年目を迎え、各クラブの実情に即した助言等を行うことができました。こうした取り組みの結果、障害のある子どもへの理解が進み、児童の受入が促進されていることから、活動の状況は順調としました。
「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害のある子どもの受入に関しては、市に臨床心理士、アドバイザーという専門家を設置（雇用）し、クラブのニーズに応じて派遣して、指導員に助言等を行うことができることから、各クラブで専門職を設置する場合に比べて低コストで効率的な取り組みと考えています。

【Action】　目的実現のために平成26年度以降に実施すること

指導員の資質向上を図るための研修の充実や、臨床心理士、アドバイザーによる訪問指導等に引き続き取り組みます。また、各クラブの運営における工夫した取り組みを他クラブに紹介するなど、指導員相互の情報交換を促進し、運営の質の底上げに努めます。
さらに、放課後児童クラブアドバイザーをクラブだけでなく、学校にも派遣し、クラブ・学校相互の連携づくりに努めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成２５年度実績評価）

事業名	総合療育センター等の専門スタッフの派遣	掲載ページ 55

コスト	事業費	平成25年度執行額	平成26年度予算額	政策分野	仕事と子育ての両立支援	担当局	保健福祉局
		69,063 千円	69,758 千円	施策名	放課後児童クラブ	担当課	障害福祉課

【Plan】計画 →

目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、放課後児童クラブ等に「総合療育センター」や「発達障害者支援センター」から専門スタッフを派遣し、指導・助言を行うとともに、保育士等の職員研修を充実することで、障害のある子どもの特性やかかわり方の理解を促進します。
活動計画		障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行います。

【Do】実施 → 【Check】評価

活動実績

活動実績は下記のとおりです。

活動指標

指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載）（上段：指標名　下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
発達障害者支援センター及び地域支援室の指導実施件数 障害児保育を行う保育所及び障害児の通う学校等の職員に対し、在宅障害児(者)の療育に関する技術の指導を行うことは、保育所等の専門性向上の判断基準となることから、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）	161 件	維持	154 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
保育所等訪問支援事業の実施件数 保育所等訪問支援は、障害児への支援に加え保育所等で障害児を担当する職員に対して障害児への関り方の指導などを行うもので、専門性の向上へつながることから活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）	未実施	増加	183 件		順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理			
	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害児等に関る保育所や学校などからのニーズは続いており、前年度に引続く派遣を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	専門スタッフを派遣できる団体に委託することで、より低いコストで実施することができました。

【Action】　目的実現のために平成26年度以降に実施すること

平成25年10月より、給付サービスの一つである保育所等訪問支援を3つの児童発達支援センターで開始しました。保育所等訪問支援は、受給者証の所持者に対して支援を行うものであり、実績件数も増えています。依然として障害かどうかはっきりしない児童への支援も必要とされており、引き続き障害児等療育支援児事業専による専門スタッフの派遣を行っていく必要があります。